

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：12703

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）

研究期間：2013～2017

課題番号：25101001

研究課題名（和文）新興国の政治と経済発展の相互パターンの解明

研究課題名（英文）Emerging State Project

研究代表者

園部 哲史（Tetsushi, Sonobe）

政策研究大学院大学・政策研究科・教授

研究者番号：70254133

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 61,160,000円

研究成果の概要（和文）：研究期間全体を通じて、経済学者、政治学者と歴史学者が協力しながら、現在の新興国の政治と経済についての実証分析を行った。総括班は、各計画研究班の共同研究を行う場を提供し、分野融合マインドを持った若手研究者の育成にも力を入れた。その結果、新興国に独自の発展経路の在り方や、それに基づく新興国の課題の存在が解明された。領域全体の活動成果として、世界的な学術書の出版社であるSpringer Nature社のシリーズEmerging-Economy State and International Policy Studiesを新たに作り出し、本領域の成果を4巻からなる英文書籍として出版することになった。

研究成果の概要（英文）：Economists, political scientists and historians conducted collaborative research in the five-year research period. They compared the paths of politico-economic development of emerging states with those of the current developing and advanced countries, conducted empirical research on current emerging states based on the comparative research, and figured out the unique path and challenges of the current emerging states. The Project Managing Group led collaborative research among five research groups and supported junior researchers to nurture the mindset of multidisciplinary approaches. The project managing group took an initiative to make a four-volume book project on emerging state, which is in the process of publication from a global, academic publishing company, Springer Nature, as a kick-off of the Emerging-Economy State and International Policy Studies Series.

研究分野：経済学

キーワード：新興国 分野融合 英文叢書 経済学 政治学者 歴史学

### 1. 研究開始当初の背景

中国、インド、アセアン諸国等の新興国が台頭し、世界の政治や経済に新興国が及ぼす影響力が強まり、不確実性を高める要因となっているにもかかわらず、新興国に関するわれわれの知見は断片的なものに留まっていた。新興国の政治と経済には、社会科学のさまざまな分野が関係し、いずれの分野にも個々の新興国をフィールドとする研究者は多かった。しかしそれらは中国研究であったり、インド研究であったりして、新興国という括りの研究はほとんど行われていなかった。英語では新興国に相当する言葉は、Emerging-market economy とか Emerging power であり、前者は経済を論じるときに、後者は国際政治を論じるときに有用だが、経済と政治の専門家が新興国について対話をするのに便利な呼称は存在しなかった。このように、新興国のダイナミズムを全体的にとらえ、世界へのインパクトや新興国に係る政策的課題についての知見は極めて浅いと言わざるを得なかった。

### 2. 研究の目的

新興国の台頭に伴い、世界的な富と力の分布は近年、急速に変化している。これら新興国の多くはアジアに位置し、新興国台頭の政治経済的影響は日本を含むアジアで特に大きい。同時に、新興国の政治経済システムは中国の党国家・「国家資本主義」体制からインドネシアの地方分権的民主制・市場経済までわけて多様である。新興国の経済がこれから「中所得国の罠」に陥ることなく成長していくためには人材育成、インフラ整備、セーフティネット整備等、多くの課題がある。そうした課題対処のためには、政治のリーダーシップ、政策立案執行能力、政治システムに対する国民の信頼（正統性）等、このグローバル化の時代における国家体制のあり方、経済運営の能力が問われている。これに鑑み、本領域研究は新興国台頭に伴う国際秩序の変容、

新興国の国家建設・経済発展の歴史と現状、その課題をできる限り体系的に、かつ国際比較の観点から明らかにし、これを一つの研究領域として開拓する。

### 3. 研究の方法

本研究領域には、(A)ミクロ実証研究、(B)マクロ比較史研究、(C)政治経済研究の三つの研究項目を設定し、新興国の国家変容と経済成長の相互作用パターンをグローバル、マクロ、ミクロの視点から政治学、史学、経済学の手法を用いて解明するという方法を採用した。総括班は、これら3つの研究項目に属する5つの計画研究での成果と公募研究の成果を集約し、計画研究と公募研究の間の相互作用を強力に促進する任務を担った。

ミクロ実証研究の当初の研究関心は、政策が現場レベルでどのように施行され、効果を上げているのか、いないのかという問題であったが、総括班の働きかけに応じて分野融合的な研究に乗り出すことになり、マクロ比較史研究や政治経済研究が提起し、それぞれの手法で検証した仮説のうち、ミクロデータによっても検証する可能性のあるものに取り組み、融合的な研究を行なった。

マクロ比較史研究は、政策の立案・施行を担う国家機構や政治体制がどのように構築されてきたのか、新興国の経済発展はいかなる初期条件の下、どのような経路をたどって達成されてきたのかを主な研究対象とし、東アジアと南アジアの今日の新興国が辿ってきた経済的、政治的な変動の軌跡を分析した。総括班によるコーディネーションの結果、ミクロ実証研究とはとりわけ開発主義体制や技術移転について分野融合的な研究を行ない、政治経済研究とは中国の「一帯一路」イニシアティブの背景やインパクトについて共同で研究を進めた。

政治経済研究は、新興国が現在直面している政治、経済、社会的な諸課題がいかなる特徴を持ち、その解決はいかにして可能となる

のかに関する研究を行ない、他の研究項目の研究員たちに検証すべき仮説を提供し、他の研究項目との共同研究を行なった。こうした分野間の共同作業は、領域代表者のリーダーシップの下で、総括班の分担者である各研究班の代表者たち調整を進めることで進展したものである。

公募研究はこの3つの研究項目での研究内容の補完や研究項目間をブリッジするような、若手研究者による新しい問いや視角に基づく研究を積極的に採用した。また、総括班の指導の下で、国際活動支援班が、各計画研究班による研究活動の国際化を支援した。

#### 4. 研究成果

総括班のリーダーシップにより、新興国の体系的な理解を示すため、以下の4冊の英文叢書を編纂した。

Vol.1	Emerging States and Economies: Their Origins, Drivers and Challenges Ahead
Vol.2	Paths to the Emerging State in Asia and Africa
Vol.3	Developmental State Building: The Politics of Emerging Economy
Vol.4	Emerging States at Crossroad

第1巻『新興国の起源、原動力と挑戦』は、新興国の体系的な理解を提示するため、経済学、歴史学と政治経済学の専門家が、それぞれの分野を超えた対話を行った。第2巻『アジアとアフリカにおける新興国への道』では、世界経済の辺境に位置するように見える国が経済開発の契機をつかむ過程について、歴史的事例と現在の事例を用いて分析した。第3巻『開発国家建設 新興国の政治経済学』は経済成長の契機をつかんだ新興国の国家再編の実態について、開発国家論を再評価しつつ分析した。第4巻『岐路に立つ新興国』は、中所得国の罨、社会経済格差や政治的異議申し立てのような新興国が直面する諸課題について分析した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

総括班は、研究活動が目的ではなく、5つの計画研究班、公募研究、国際活動支援班のコーディネーションが任務であったため、主な学術論文等の報告は各研究計画班の報告に委ね、ここでは省略する。

[雑誌論文](計0件)  
 [学会発表](計0件)  
 [図書](計0件)  
 [産業財産権]  
 出願状況(計0件)  
 取得状況(計0件)

[その他]  
 ホームページ等  
<http://www3.grips.ac.jp/~esp/>

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

園部 哲史 (SONOBE, Tetsushi)  
 政策研究大学院大学・政策研究科・教授  
 研究者番号: 70254133

##### (2) 研究分担者

戸堂 康之 (TODO, Yasuyuki)  
 早稲田大学・政治経済学術院・教授  
 研究者番号: 30336507

白石 隆 (SHIRAIISHI, Takashi)  
 政策研究大学院大学・政策研究科・客員教授  
 研究者番号: 40092241

大塚 啓二郎 (OTSUKA, Keijiro)  
 神戸大学・社会システムイノベーションセンター・特命教授  
 研究者番号: 50145653

佐藤 寛 (SATO, Hiroshi)  
 独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・新領域研究センター・上席主任調査研究員  
 研究者番号: 50403613

杉原 薫 (SUGIHARA, Kaoru)  
総合地球環境学研究所・研究部・特任教授  
研究者番号： 60117950

恒川 恵市 (TSUNEKAWA, Keiichi)  
政策研究大学院大学・政策研究科・特別教授  
研究者番号： 80134401

鬼丸 武士 (ONIMARU, Takeshi)  
九州大学・比較社会文化研究院・准教授  
研究者番号： 80402824

松本 朋哉 (MATSUMOTO, Tomoya)  
小樽商科大学・商学部・教授  
研究者番号： 80420305

高木 佑輔 (TAKAGI, Yusuke)  
政策研究大学院大学・政策研究科・助教授  
研究者番号： 80741462  
(平成 27 年度より研究分担者とした)

本名 純 (HONNA, Jun)  
立命館大学・国際関係学部・教授  
研究者番号： 10330010  
(平成 29 年度より研究分担者から削除)